

東北公演旅行記

體操部
音樂部

森
稔

體操部、音樂部の地方公演の計畫は久しい前から考へられてゐた。だが、いよく實行しようといふ具體的な話になつたのは、二月の軍人會館でやつた學園祭の晩である。すばらしい出來榮を見た體操部は、その晩みんな昂奮と感激に酔うてゐた。メンバーも揃つてゐる。三月過ぎると幾人かの優秀なメンバーを送り出すことになる。やるなら今だ、三月中に是非やらうといふことになつた。

齋藤先生、矢部先生を中心に、生徒では關根君、大矢君、松田君、小林君達が先に立つて實行のプランに骨折つた。

でかける地方は、齋藤先生の郷里であり小原先生の後援者の多い東北地方が一番やりよかつた。色々手紙で交渉した結果、秋田、山形、新潟の地方に決定した。新潟はO・Dの佐藤さんが、殆んど一人でまとめてくれた。他の地方でも今度の計畫には、O・Dの入達が中心だつた。ホントに地方に出

て見て、O・Dの入達の力強さをしみんく感ずる。

音楽もといふので、両方の部が一緒に行くことになつた。音楽もでき、體操もできしかも幾日かは、學校を休むことになるので、學習の方でも頑張りのある子といふので、入選はなか／＼の問題だつた。殊に、日本で最初といつてもいい、男女一緒のかうした旅行なので、そちらの心配もなかなかだつた。それだけに、今度の旅行團の人々々は、ホントに玉川が世間に誇つていゝ、堂々たる玉川ツ子の代表である。單なる音楽・體操の公演旅行でなく、私達の學園の教育の各方面を見て貰ふ旅行だつた。何處へ行つても、素直ですね、よく働きますね、と感心されたのもこのためだつた。

經濟もなか／＼大へんだつた。ドイツのワンダーホーゲルのやうな氣持で、みんなリニクサクサクついて、學校の作法室に寝る覺悟でかけた。武者修業といふ言葉

が一番よくあてはまるだらう。

この旅行の目的については、小原先生も各地の講演でお話になつたが、最近の日本は世界的に非常な躍進振りを見せてゐるが教育方面ではまだ三つの點に於て外國に遅れてゐる。一つは機械教育、外國では子供の時分から、自動車などで機械に親しんでゐるので、この方面が大へん發達してゐる。日本人は世界一先が器用なんだから子供の時分から機械に親しむやうになれば、きつとすばらしいものができるといふが、次には健康である、人生五十といふが日本人の平均年齢は男四十三、女四十二である。これをデンマークの人達に比べると體力など非常な差で、働くにしてもデンマーク人は日本人の二倍の仕事をやる。従つて日本人はデンマーク體操を大いにやつて體力を鍛へねばならぬ。

もう一つは、日本人は一體に無愛想だ、女も謙遜の美德はあるが、どうかするとそ

れが引込めなくすになる。そのためには、音楽をやつて、明るくならなければならぬ。

かういふわけで、今度の旅行は、體操による健康、音楽による明朗さ、快活さを強調すると共に、正しい體操、音楽を見て貰ふといふ考を持つてゐた。

三月の豫定が四月末になつたのは、例の東京の事件が起つたからである。

體操部は、齋藤由理男先生の指揮、先生は秋田の出身で、デンマーク體操では日本の第一人者である。デンマークでの多年の研究に、更に、各方面からの研究をとり入れ、日本精神をもつて渾然融合し、獨特の創意による、新しい日本體操である、ブツク體操とかデンマーク體操といふよりは、齋藤體操とでもいつた方がより適當であらう。ラデオ體操も大半これによつてゐるし海軍でも最近これを取り入れようとしてゐる。先生はまた指導もすぐれたもので、最

近の軍人會館での發表會でもすばらしい好評を博した。

音樂部は岡本敏明先生の指揮、毎年日比谷で開かれる全國の合唱のコンクールに、いつも第一位を占めてゐる混聲合唱團である。ラデオ放送や、レコードですでに親しみ深い人もあるだらう。先生は作曲にすぐれ、今度の公演にもその作品をいくつか合唱する。旅行からかへると、この五月に、

オリムピック選手を送る新交響樂團の演奏、ベートーベンの第九シンホニーに選ばれて混聲合唱團として出演する。いよ／＼出發となつて、でき上つたメンバーと豫定は次のやうである。

△先生
○ムムバー三十五名

小原先生、齋藤先生、岡本先生、矢部先生、森先生、小原先生のおぼさん、白石のおぼさん

△男子

専門部 關根、大矢、松倉、松田、四月二十八日 上野發 后 十時 泊リ(西目小學校)

小林、相葉、小川、佐藤、井、大曲着 前 十時四十一分 五月四日 西目發 前 七時三十一分

上、指田 實演后一時ヨリ(小學校講堂) 泊リ(大曲旅館) 五月四日 西目着 同 九時〇七分

△女子 中學校 吉田、田口、小原、四月二十九日 大曲發 前 九時四十九分 泊リ(大曲旅館) 五月五日 西目發 前 七時三十三分

高等部 金井、宇佐、堀澤、森、十月文字着 同 十時四十三分 實演后二時ヨリ(増田小學校) 泊リ(増田旅館) 五月五日 阪町發 前 十時十七分

女學部 白石、橋本、山田、谷口、實演后二時ヨリ(増田小學校) 泊リ(増田旅館) 五月五日 新發田着 同 十時五十八分

中村、河野、加藤、菅野、五月一日 十文字發 前 七時二十六分 泊リ(金足小學校) 五月五日 新發田發 后 六時五十七分

北爪、佐藤、五月一日 追分着 同 十時十四分 泊リ(大矢君、家) 五月五日 新發田着 同 六時五十七分

○係員 會計係 關根、五月五日 阪町發 前 十時十七分 泊リ(大矢君、家) 五月五日 新發田着 同 六時五十七分

人事係 松田、金井、五月二日 追分發 前 七時五十八分 泊リ(金足小學校) 五月五日 新發田着 同 十時五十八分

宿舎係 相葉、小川、宇佐、堀澤、五月二日 本莊着 同 九時〇八分 泊リ(金足小學校) 五月五日 新發田發 后 六時五十七分

催物係 關根、松田、五月二日 實演前十時ヨリ(本莊高女講堂) 泊リ(金足小學校) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

交渉係 松倉、五月二日 同 后二時ヨリ(子吉小學校) 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

記録係 佐藤、五月三日 本莊發 后 一時二十四分 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

用具係 大矢、五月三日 西目着 同 一時三十四分 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

乗物係 小林、五月三日 西目着 同 一時三十四分 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

郵便係 田口、五月三日 西目着 同 一時三十四分 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

○日程 四月二十八日 西目着 同 一時三十四分 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

四月二十八日 西目着 同 一時三十四分 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

四月二十八日 西目着 同 一時三十四分 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

四月二十八日 西目着 同 一時三十四分 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

四月二十八日 西目着 同 一時三十四分 泊リ(本莊旅館) 五月五日 新發田着 同 八時二十分

いよ／＼出發の日、丁度滿洲から毎年學園へやってくる師範學校の男生徒、女生徒が大勢やつてくる日と重なつたので、そつちの歓迎會やら、出發の用意やらなか／＼忙しい。

この滿洲からのお友達に、先づ鍛へ上げた體操を總練習の意味で見て貰ひ、食堂の夜の歓迎會では、音楽部も大いに歌つた。「さようならの歌」でお別れして學園の驛へ。歌とみんなの萬歳に見送られて新宿へ。

七時の電車、此處でみんな待ち合せて上野へ。今晚の汽車は十時の發車、時間近くになるとプラットホームは、見送りで一ぱいになる。生徒達、卒業生、父兄、先生方も見へた。

あつちでも、こつちでも激勵から喜びの聲、笑ひ、別れの言葉、握手、みんなにとりかこまれて、旅へ行くものは、十日間の壯途の期待に興奮してしまつた。

ベルが鳴つて汽車が動き出す、どつと上

に梁東が立てゝある。

「あれは肥料にするんだ」と齋藤先生が故郷の説明をする。

佗しい町を幾つか通り、午前十時四十分大曲着、最初の公演地だ。汽車を下りてホットしたが、寝不足の重い頭に、外の陽がまぶしい。驛には大曲高女の先生方と生徒が大勢迎ひにきて下さつた。迎へる人、みんなニコ／＼顔で初めての印象が親しみ深い。重い荷物を持つていたゞいて、旅館へ。埃りつばい一本の長い町、曲つてもおないのどうして大曲の町かと思つたら、大麻刈といふのからきたのださうだ。佐々木旅館の明るい二階の室に通された。體操と音楽の支度をして、支關で記念撮影してから女學校へ。街に體操音楽の公演のピラを見て、一寸くすぐつたくなる。ピラには混雑が混成とあるが、如何にも混成然たる團體の一行である。氣持のいい川がある。女學校の門へ入ると、窓、二階の窓、一ぱ

る歓迎、萬歳、高唱するコーラスの聲の中に車の音が高くなり、窓邊を走つてゐた人達もハンカチも、どよめきも驛の灯も、みんな後へ消えて、車は闇の中へすつかり走り込んだ。

食堂車の隣りの、二等車續きの客車をみんなで占領してしまつた。二、三人隅の方に頭張つてゐたお客さんも、何時の間にかみんなの勢に押されたのか姿を消してしまつた。

見送りから席へかへると、小原先生がお菓子をぶらさげて入つてくる

「みんなで食堂へ行かう」先生も上氣嫌で「俺がおごるぞ」と門出の乾盃を提議する。

「ワァーッ」と興奮した歓迎が上がる。食堂車も僕達には狭くつて、かはる／＼先生の御馳走になる、出逢早々「肉食嚴禁」の約束なんか忘れた顔で、みんなバクついてゐる。

この汽車には、北海道へ百科辭典の宣傳

にでかける先輩の平さんも一緒に乗つた。

一同席におさまると、コーラス、體操の練習、お饅頭、トランプ、讀書、手紙書きが始まる。早いのはほつ／＼窮屈さうな恰好で眠つてゐる。横になつたり縦になつたり例によつて夜汽車はなか／＼眠られない。面倒くさくなつたのか、絨ちやんは土間にゴロリとレインコートをかぶつてグーグーやり出した。

「よく眠つてゐるやがるなあ、明日は二人分やつて貰はうぜ」といふことになる。

その中何時眠つたのか、ぼんやり頭に残つてゐるのは、鐵橋を渡る汽車の音、何處かの驛の灯、寒々とした賣子の聲、残雪、山、峠の家、きつと板谷峠だつたらう。

四月二十九日
白々と朝になる。方々雪がどつさりある。雪崩れ後、雪に折れた木、河は雪解の濁水が溢れてゐる。雪の無いところへくると、見渡す廣い山一面、羊の群かなんどのやう

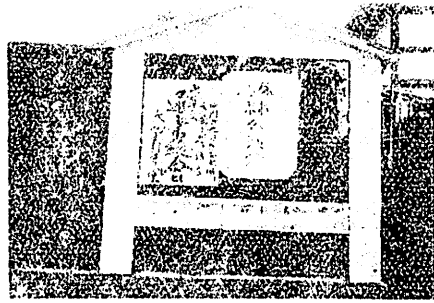
びたんですよ。校長先生が嬉しさうな辯解をなさる。全く小原先生の人氣は大したものだ。

校長は高橋鶴五郎先生、背が高いので鶴五郎先生、先生、これ、先生、原先生、生が、奉つ、た尊、稱な、んだ、が、何時の間



大曲佐々木旅館にて

い女の子、學生が手を振り、聲を上げて歓迎して敷いた。小原先生は幾度も講演にくるの、生徒達はあゝやつてくくるとめてもあの通り喜び



(大曲の夕)

にか本名視されて、先生が學園へこられると、鶴五郎先生かおいでになりましたなんて眞面目にとりつく有様である。鶴の詩を

保つて先生は相變らず元氣一杯、秋田縣の大先輩で學校はまた舊作學校として立派なものだ、こゝで養食を御馳走になつた、豚兎、七面鳥の飼育、温室、方々秀作の場面を見せていたとく、化粧品などレットルの意匠から何まで、立派な製品を出してゐる、「やらせればなか／＼やるもんですね」と校長が言つて居られたが、各方面に立派な成績を上げてゐる。

會場である小學校の講堂へ行く、女學生が案内してくれる。廣いグラウンドで雪の山々がくつきり見える。講堂は女學生、小學生、附近の先生方、一般人などがさしもの廣い處にぎつしり。午後一時半から、小原先生の講演、今度の旅行の目的、女學生が多いので、日本女性の偉さなどについてお話になつた。

昨晩の疲労や第二日目で固くなつたやうな點もあつて、思ひ切つてはできなかつたが、體操はなか／＼出来だつた、音楽

て、女中さんに蒲團を持つて行かれるお遊坊さんもゐる。みんな揃つて朝食。教育大學部を卒業した高橋運平さんから昨晩いたゞいた林檎を御馳走になつた。

女學校の先生方が四五人來訪、小原先生がサインや色紙を書かれる。汽車の時間が迫る、小雨の中を自動車をとばして驛へ女學生達が、大勢見送りにきて下さつた。記念撮影

高橋先生から、學園の生徒達が銘々お家へ便りを書くやうにと、女學校のエハガキと切手まで添へて下さつた。ホントにこまかいところまで、御親切有難うございました。早速汽車に乗ると、お便りを書きました。

「誰かみんなの郵便物を集めて出したり、切手やハガキを澤山用意しておくやうな仕事をやる者を一人きめたらよからう」といふ小原先生のお話で、田口がその郵便局長さんに就任。

も靜かに聞いてくれた。少しおづかしいものでも、ホンモノは誰にもわかるものを持つてゐるといふ氣がした。

五時半に終つて宿へかへる。後片づけの時、女學生達が手傳つてくれた、その勞作の心がけにみんな感謝。大部寒い、女中さんの言葉がわからない。そろ／＼みな面白がつて秋田縣を眞似し始めた。

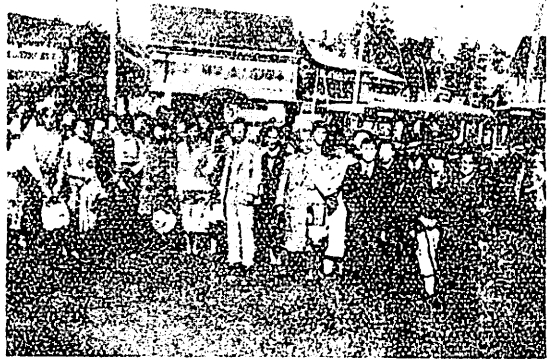
宿へかへると、早速、今日の盛會を學園へ電報打つた。

「セイカイカイシユウ三ゼンダイイチニテオハル」

小原先生を始め先生方だけ、女學校から夕食に招待されて、大曲で一番大きな仙北ホテルへ行つた。大きい綺麗なお風呂が自慢で、内田鐵相がくるといふのでこしらへたのださうだ、僕等がお先に失敬したわけだ。女學校の先生方も全部集つて親しみのある賑かな會食だつた。

こゝが終つてから更に旨い川魚を御馳走

十時四三分、十文字着、バスで岩田小學校へ、男生のバスと女生のバスと、抜いたり抜かれたり、女の方の自動車の後に「明



十文字に着

治一代女」と大きな映畫の廣告のあるのを笑つたりしてゐる中に、學校へつく。

早速十一時半から小原先生のお話、生徒は二階の作法室、先生方は校長室で

すると、自動車で大勢遠く暗い道をとばした。校長先生、校醫さん、首席の先生など四、五人の先生が一緒だつた。長い橋の上で下りて歩いた。玉川といふ川で、この橋が玉川橋といふのださうだ。思ひがけない處で、同じ玉川の名をきいてなつかしかつた。向ふに見える山は××山です、この橋は……。色々説明をきいたが忘れてしまつた。夜風に吹かれながら橋のたもと茶屋へ上つた。こゝで川魚の料理を御馳走になつた。自動車で宿へかへた時は、十二時過ぎだつたらう。ホントに御馳走になりました。

齋藤先生は同窓生が集るといふので途中から早くかへつたが、もう寝てゐた。生徒達も疲れてぐつすり。

四月三〇日

熟睡、八時頃やつと起床、外は小雨、早く顔を洗つた連中はピンポンをやつて遊んでゐる。何時までも蒲團にもぐり込んでゐ

養食を御馳走になつた。校長先生はこの學校に二十年も勤めてゐるさうである。小さな子の書が壁にかけてあつたが、なか／＼どれも立派なものだつた。片隅に優勝旗が飾つてある。今日も寒い日、水鉢のそばがいゝ。

この附近リンゴが名産ださうだ。校醫さん、町長さん、幼稚園長さん、有志の人達が大勢見えて、音楽や體操を見て居られた。二年生以上の生徒達で、みんな大喜び。こゝでも講堂の入口に、エハガキや圖書の店を設けた。この學校では晝と夜と二回の公演なのでなか／＼忙しい、宿で夕食をすますと直ぐ夜の部のためにかける。晝間見た生徒達がまたやつてきてゐる。よほど面白かつたらしい。子供達の宣傳がきいなか、町の人達も大勢で、廣い講堂も通りぬけるのがやつとの位のつまり方、見る人達の熱に動かされて、體操も音楽も非常に好調、歓聲が多くて會場が狭いのが残念だつた。

子供が十人近くも寝てゐる上を轉回してとび越す跳躍や、音楽の餘興、コール・ジョンなどなか／＼好評だった。

終つて、牛乳を御馳走になつてかへる。高橋運平さんもきて見てくれた。こゝから少し離れた村の青年小学校をやつてゐるのださうだ。宿は土蔵があつたり、古い作りの變つた家である。

五月一日

朝、明るい天気、二階の手すりからの眺めがいい。カヤの大きな樹々の茂つたのに陽が光つてゐる。今日からもう五月。旅の爽かな五月だ。訪ねてこられた先生方と記念撮影、朝食を一緒に。今日の豫定は金足小学校、初めての人が多いので秋田市へ下車して一通り街を見物したいといふので、玲水さんに電報して豫定を變更、玲水さんといふのは教育大學部の卒業生で、金足の公演をまとめてくれた人。七時二六分の汽車で十文字發、秋田で下車したら丁度學校

へ行く玲水さんと一緒になつた。「班食の用意もあるから是非金足へ」といふので、

秋田駅前にて



急いで又汽車へ乗る。ところがまた「やつ

ぱり下りて見物しよう」といふ話になり、

大あはてにあはて、下車。乗つたり下りたりで、汗をかいてしまった。玲水さんは一足先に學校へ。際には伊藤先生。——四月

まで學園の先生、今は秋田の女子師範の先生。もう一人伊東さん、この人は赤十字の仕事をやつて居られる人。お二人で迎ひにきてゐて下さつた。驛前のホテルに荷物をあづけて公園へ行く。街は軍旗祭と御櫻會とで大賑はひ。公園には曲馬團のテントばかりの小屋などが並んでゐる、佐竹侯の城跡で、お堀に水を湛え、秋田平野を一望し得る眺望の地である。今は全山櫻を植え、記念館が建ち、花に楽しむ千秋公園になつてゐる。こゝには又平田篤胤の神社がある。公園を一まわりして、秋田魁新報社へ立ち寄る。秋田出身者の洋装展をやつてゐた。表に大勢立つてゐるので、向ひ側の病院の窓から、顔を出したりひつこめたり覗いてゐる。腹がへつたので、アンパンと大饅頭

を澤山買込んで汽車へ乗る。このアンパンあまり人氣がなく澤山買ひすぎて困つたが追分へつく頃までにとつちやら處分。

追分——小さな寂しい驛、金足の先生方が迎ひに見えて居られた。荷物は運んで貰ふことにして

秋田市の見物



身輕になつて歩く。砂道で海が近いらしく海岸らしい。松林がある。大きな新しい農學校の前を通り、景色のいい湖のほとりに出る。途

中の景色を是非見せたいといふので、玲水さんの案内で遠まはりの道である。連日の奮闘の疲れを歩くので、みなかなり疲つたらしい。岡本先生、白石のおばさんそろそ

ろ殿になる。しかし毎日の忙しさにゆとりを興へてくれるやうな、ホントに心を喜ばしてくれた美しい道だつた。雪解で湖の水が溢れ、道踏までひたしてゐる。有名な篤農家の家といふそばも通つた。増田の校

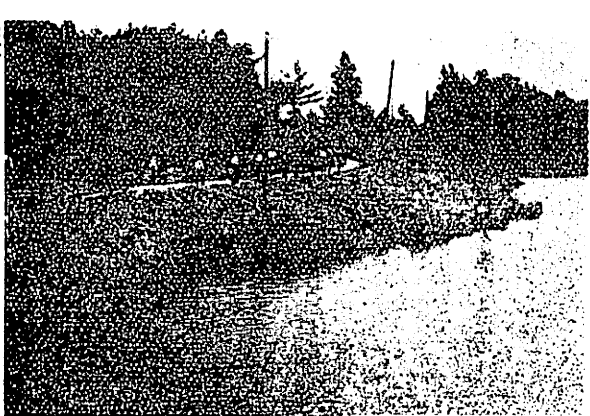


と方生先の足金

長先生の話では金足は昔オランダ人の漂着した處ださうだ。何か面白い話でも残つてゐないか玲水さんに聞かうと思つてゐたが忘れてしまつた。

「そこが玲水さんの昭和の芭蕉たる所だ」と伊藤先生が言つたが、この遠い道を毎日往復とも玲水さんは獨りテクルのださ

湖のほとりを金足へ



うだ。漸くにして坦々たる街道に入つた。大き

な松並木が兩側から蔽ひかぶさつてトンネルになつた道である。學校について立派なのに驚かされた。山を切り開いて建てた新築、二階建の大きな美しい學校で、周囲の眺めは又、何處にも見られないすばらしい處だ。夏の一ヶ月位はこの先生になつてみたい處だ。食堂で、高等科の女生徒の料理のライスカレーを御馳走になつた。この前學園へこられた山内さんの奥さんがこられて、みんなへ梨を一箱下さつた。わざわざ遠方から全生徒を通して見にこられた校長先生もあつたり、此處でも非常な期待と歓迎が待ちかまへてゐた。午後から講堂で最初は小原先生のお話、つゞいて體操、音楽、すばらしい妙技に興奮して、ぎつしりつまつた歡樂からしきりに酸接がとんだ。夜食後、茶話會、盛んに餘興が出たが、中道先生の民謡、「どじよつこの歌」が断然皆を喜ばした。弦ちやんは兵隊検査があるので、暗くなつてみなに別れて今日の道

をかへつて行つた。しばらくしてひよつこり又かへつてきた。旅費を貰つて行くのを忘れてでかけたといふ。金を貰つて獨りかへつて行つた。夜は作洪室と柔道室に寝た。蒲團のお世話などホントに宿屋に泊る以上の御迷惑をおかけしました。寒いだらうと夜中にわざ／＼また蒲團を持つてきていたゞいたり、色々有難うございました。五月二日自動車で追分の驛へ。おまけに近い街道を行つたので、直ぐついた。秋田で乗換へて本莊へ、乗換へ時間が短いので大急ぎ。體操のマットや跳箱はとう／＼同じ汽車につめなかつた。九時八分本莊着。宿で支度をととのへて本莊の女學校へ。小原先生のお話、講堂には女學生と附近の先生方だけみんなで五〇〇人ばかりだらう。音楽を先に、風の強い日で窓がガタ／＼鳴る。砂埃りがとぶ。昨夜の民謡「どじよつこ」を聞

本先生が曲をつけて汽車の中で練習したばかりなのを早速、餘興として發表、みんなを笑はせ、大好評。文句もなか／＼賞讃的で面白い歌だ。地方のかうした歌も作曲しなほすときつといふ歌が澤山あるのだらう。面白いからやつてみたことだが、考へると今度のこの歌など、この旅行の大きな收穫の一つかも知れない。歌をかきつけておかう。

- 1、春になれば すがこもとけて
どじよつこのだの ふなつこのだの
- 2、夏になれば 泳ぎ子だきて
どじよつこのだの 鮎つこのだの
鬼こきただと 思ふべな
- 3、秋になれば 木の葉こ落つて
どじよつこのだの 鮎つこのだの
舟こきただと 思ふべな
- 4、冬になれば すがこもはつて
どじよつこのだの 鮎つこのだの

天井こはつたと思ふべな

體操もまたみんなを感心させた。體操部揃つて記念撮影。こゝの校長先生は小原先生と同窓なのださうだ。費食、汽車時間をき、違へてみんな三十分も早く歸へ。一時半發で子吉へ。この汽車がまた可愛らし

の島山海がいつも優等と一緒だ。風葉の柳を鐵が渡つて行く。學校も古い小さな學校。かなり遠かつた。校庭で一休みして、體操から始める。今日は學校に二つ三つ集會があるとかで、見るのは小學生と青年。初め

なお風呂に入れて貰つた。裁縫室にぐるり丸く坐つて、こゝの先生方も一緒に夕食。校庭で自轉車をのりまわしたりして暫く遊んで驛へ行つた。汽車がなか／＼やつてこゝのきの小屋だけぽちんとあるところで眞暗くなるまで待つた。

いちつぼけな豆汽車博物館でも行かなければ見られないやうな古い物。みんな面白がつて寫眞をうつしたり、機關手のおぢさんに頼んで機關車に乗せて貰つたり



子吉の豆汽車

珍しがつて大騒ぎ、これから行くところは今度の旅行で一番の出資。二つばかり驛を行つたら、あつてなくこの豆汽車とお別れ。廣い田圃道を學校へ、田圃のつきるところが美しい山々がぐるりとまいてゐる。雪

て見るこの體操に、拍手で大きき、終つたらさつそく體操場で眞似してゐる。音楽は講堂で、なるべくわかり易い曲を選んでやつた。この時は村の人達も大勢だつた。音楽が終つて小原先生のお話、學校の大き

がきたり、宿の娘が女學生でかへつてきて待遇が違つたが、その中、女學校の先生話したりした爲か、急にあしらひ方が變つたさうだ。とにかく安いお客さまだからだらう。夜、女學校の先生方、子吉の先生で、〇

Dの柴田さんなどこられて大いに話す。
五月三日

今日は休養日で、みんな朝寝坊。室に陽がカン／＼照りつけてから起きる。遅い朝食。こゝは水が不便な處で、窓の外に澁化装置があつて、一晩中、水音が聞える。女學校の先生からお菓子を澤山いただいたので、茶話會。昨日の體操部の寫眞を寫眞屋から持つてきた、一枚二十五錢で賣ることにする。

妻まで自由行動。誘ひ合せて公園の櫻見物にでかけた。丁度満開で觀櫻會の最中、春を迫ひかけて、今年二度目の花見だ。なか／＼の人の出で賑かだ。小高い山で城趾らしい。大きな池があり、平野の向ふ遠く、花の間に鳥海富士が見え、思はず足をとどめるやうな美しい眺めだ。先生方の話ではこゝには古い人形芝居が残つてゐるさうだ。廢寮店、見世物小屋、酔つた人などを見ながら山を下りる。

牛乳を御馳走になつたのが動機となつて、かへつてきて早速始めたのださうだ。

西目村歌

美し村あり 森は薫り
潮は煙る 丘に谷に
これぞ我郷土 ゆかしき西目
たのし村あり 働き和して
村人共に 祝ひはげむ
これぞ我郷土 ゆかしき西目
樂ゆる村よ 子供よはげめ
若人剛く 少女よ笑めよ
たのしき郷土よ わが郷土永遠に

二時半から講堂で小原先生のお話 體操音楽、終りに僕達も校歌を歌ひ、交歓の意味で、村の歌をきかしていた。とてもいい歌だった。校長先生のお作りになつたものさうだ。六時に終る。昨日までお寺に集りがあつたり、觀櫻會やらで、集り

名産のとりもろこしのお菓子を土産品に買つてかへる。調大のビラがはつてある。秋田らしい風景だ。一時二六分の汽車で西目へ。小原先生は雑誌のサインで大急ぎやうやう歸へ。本荘から十分ばかりのところ。



西目の生徒さんたち

は高等科の生徒を連れ先方が大勢見えて

居られた。流れに沿つた櫻並木の路を行く左は廣い田圃。山、道ばたの草木に名札がつゐてたり、櫻の枝には、生活向上の標語の短冊をぶらさげたり、なか／＼細い



西目から見た鳥海山

水泳のプールにして講堂やその他學校の建物など農村に

しては立派すぎる程の堂々たる設備だ。獨立や甲冑の飾り物や、なか／＼いゝ趣味を見せつゐる。生徒は七五〇人、雪國のためか、男女別の體操場が二つもあつた。牛乳を御馳走になつた。學園に來られた時に

はあまり大勢ではなかつた。すんでから、「こないゝものなら是非もつと／＼大勢村の人達に見せたかつた」と校長先生が残念がつて居られた。講堂から出てきたら弦ちやんから電報。「コウシユガワカク」みんなで弦司萬歳……。體操場で、在郷軍人の銃剣術、軍刀術の勇壯な試合を見せていた。かへりに一通り學校を案内していた。いた。プール、温室、馬、牛、綿羊山羊、豚、果樹園、畑、各方面を色々となか／＼よくやつて居られる。校長先生はこゝに十二年居られるといふ。理解のある村長さんを持つて、學校も村も幸福である。暗い道を今晚の宿舎であるお寺へ。遠くの山に山燒きの火が見える。圓通寺といふ禪寺である。本堂に寝るなんてみな生れて初めて経験なので少し氣味があるさう。ぐりり並んだ大小様々の佛さまは、泣きさうな顔、笑顏のユーモアの佛さま、中にはらんんでゐるこはさうなものもある。みな神妙

に隅つこにかたまつてゐる。夕食後、村の人や青年や大勢集つて小原先生のお話、生方も來られた。次に餘興に移つて、郷土民謡や踊り、追分の「ソイ……ソイ」といふかけ際がおかしいといつて笑ふ。オイトコ踊りも面白かつた。途中に弦ちやんがかへつてきた。迎へに行つた三三人と入つてくる、甲種合宿で意氣揚々だ。學園の生徒も二つ三つコーラスをした。みんな「證じよう寺の狸」の歌をやつて、「和尚さんに負けるな……」は傑作だった。和尚さんは幸にあなかつたがあたり苦笑するところだつたらう。後で氣がついておかしかつた。とても寒い晩でふるへ上つてしまつた。大勢ぎつしり床を並べて本堂に寝た。外は冷たい月夜

五月四日

小原先生と齋藤先生と二人だけ、五時に起きて先に出發された。僕等も出發が早いので六時起床。顔を洗ふ水がとて冷たい

朝。お寺だが精進料理でなくてなか／＼御馳走だった。田圃道を驛へ急ぐ。西日の光

西日のお寺を出発



生方も見送りに來られた。途中で逢ふ小學生が丁寧に話をして行く。昨日の本莊の女學生達が汽車で通學するのを見つけて、手

あはて。井上は危く乗り遅れるところだった。汽車でかへる女學生達と又一緒になった。すつかりお友達になる。九時坂町着。小さな暗い町。弦ちゃんのお母さんや家の人達が出迎ひにきて居られた。町には自動車が多しかなかった。先生方と女學生が乗つて、男生は歩いた。大矢の弦ちゃんの家は舊家らしく、旅館のやうな二階建の大きな家だ。全くお禮の申しやうもない程の歡待で、僕等のためにわざ／＼お風呂場を作つたり、寢巻まですつかり新しく用意したものだ。旅へ出て久振りのコーヒを御馳走になり、夕御飯も今までの中一番の御馳走だった。小學校の先生方も訪ねてこられて一緒に歌つたり踊つたり、玉川の夕をやつた。お婆さん達の踊りは楽しげな無邪氣な面白いものだった。外はおぼろ月夜で、田が近いので蛙がしきりに鳴いて居る。

五月五日

晴、五月のお節句の日。七時半起床。一

を振つて別れた。

七時半の汽車で酒田へ。途中、海が見えた。女學校へ行つたら小原先生のお話が度終つたところで、直ぐに音楽。卒業生の萩原君が新聞で見たと聞いてやつてきた。體操には少し狭いといふので、自動車で小學校の體操場へ行つた。街には崔承喜の舞踊公演のポスターがはつてある。この體操場といふのがまた滅法大きな體操場で、日本一とかで、まるでツエツベリン飛行船の格納庫のやうな感じだ。

真中に幕を下げて片方でやつた。小學校の先生方、非常に好評で、體操のシヤシヤは勿ち賣り切れてしまった。こゝでも校歌の交歓。なか／＼校歌だ。お菓子とお辨當を買つて急いで汽車へ。校長先生を始め先生方が見送つて下さつた。新聞に乗せて貰ふやうに、旅行のことを書いて新潟の佐藤さんへ送つておいた。一時十三分鶴岡

べんに大勢のお客さんなので、弦ちゃん弟のミドリちゃんは大喜び。みんなの人氣者だ。庭で顔を洗つてみると村の子供達が

大矢君の家



珍しがつて塀の下から覗いてゐる。朝からえらくサインがはやる。一人々々に雷かせ

着、自動車で女學校へ。圖書室で一休み、萩原君も一緒にいた。

二時から小原先生のお話。生徒達を大いに笑はせた。岡本先生の紹介。『雲雀の歌』からコーラスが始つた。こゝの気分は何とはなく氣持よくて、やる方も大へんやりよかつた。體操も熱演。齋藤先生の調子がよかつたのか、生徒が調子に乗つたのか、見る方で一つ／＼の動作の度毎に拍手で熱狂するので、見る方もやる方も一生懸命だつた。五時頃終つたので、校庭で暫く高飛びをやつたり、バスケットボールをやつたりして遊んだ。

両方の女學生はずつかり仲よくなつてしまつて、サインを頼まれて追ひかけまはされてゐた。校門の前で一同揃つて撮影。自動車で電燈の明るい町を驛へ。六時半の汽車で弦ちゃんの家のある坂町へ。車が三分にかり遅れるといふので安心して四五分買物にかけたが、それが聞き間違ひを大

られるのだから大へんだ。今日は豫定を變へて、弦ちゃんの卒業した俣内小學校で公演することになった。お禮のためにうんとすばらしくやらうといふことになった。小學校はコンクリートの堂々たる講堂で、思ひがけない立派な學校だ。附近の先生方、生徒、村の人、廣い處に一ぱい入つた。小原先生のお話、體操、音楽。

十二時に終つて歩いて驛へ。サイダーやバナナを御馳走になつた。支關では弦ちゃん／＼と、小學生達はこの先輩を大歡迎で校長先生も好意を持つてやつて貰つたことを喜んで感謝して居られた。弦ちゃんの家からはお辨當と梨までいたゞいた。お母さんと家の人が三人、同じ汽車で僕等と新發田までこられた。二時に新發田について小學校へ行く。新潟の、O・Dの佐藤さん、校長先生を始め、大勢迎ひに來られて、支關前で撮影。昨年出来上つたといふ二階建の、まるで迷兎にでもなりさうな廣い大きな學

校だ。先生が七〇人、一年生だけで、十ヶ
ラスもあるといふ学校だ。広い立派な體操
場が兩家に二つある。會場は右手の講堂

新發田小學校女關に



ぎつしり集つた人は三千人以上もあつたら
う。小原先生のお話、體操、音楽とやつた
音楽ではバスのピカ一の關根君が風邪で辞

つてみるのを撮影した。

音楽も「コルジョンヤ」「どじよつこ」の
歌など、みなを喜ばして、盛んな拍手を受
けた。十二時半に終つた。

小原先生の恩師が丁度この師範の校長
先生で、これを見て是非師範でやつて貰へ
ないだらうかといふ話で、豫定外だがやる
かどうかみなで相談した。今晚泊ることに
して、齋藤先生に一寸おこられたりしたが
直ぐ氣持よく、午後師範でやることにきめ
た。

二葉の先生方もみな加つて會食、食後、
本場のおけさを聞かせて貰つたり、こつち
でも歌つた。北原白秋さんの「砂山」はこ
の近くで作つたものださうで、みんな歌
つた。先生方に送られたながら自動車で師範
へ。講堂で音楽、師範生や附屬の小學生だ
けだから、あまり多くはない。しかし師範
生であることに、この音楽なり、體操なり

が出なくて休んだので、すつかり困つてし
まつた。こゝでも校歌の交歌をしたが、何し
る三〇〇〇人も人が歌ふのだから力強く
とどめていゝものだった。會議室で夕食を
御馳走になつた。校長先生の奥さんが丁度
汽車で玉川の人と一緒に、親切に席をゆづ
つて貰つたと言つて、感謝して居られた。
七時の汽車に乗つて、八時二〇分新潟滑
豫定通りのもつと明るい時間だと二葉小學
校では旗を持つて驛へ出迎へる豫定だつた
のださうだ。成城、玉川の卒業生、二葉の
先生など大勢の出迎ひで賑かだつた。もう
こゝへくると、大分東京へ近くなつた感じ
だ。自動車で宿屋へ。安い處といふので小
さな宿だ、話の行き違ひから、部屋が足り
なくて、女學生だけ他の宿に泊ることにな
つた。宿では非常に恐縮してゐたが、親切
な氣持のいゝ宿だつた。卒業生達が持つて
きたお菓子で茶話會、明日の晩かへるのか
と思ふと残り惜しくなる。一つ思ひきつて

がなか／＼意味を持つてくる。體操も時間
があまりないので、充分にはやれなかつた。

二葉小學校文關にて



終つてから、成城の卒業生で工場課長の
坂本さんの案内で、新潟公園のチネリッ

佐度へ行かうかといふ話も出た、二回の公
演で疲れてゐるし、遅くなつたのでおやす
み。

五月六日

雨、お別れの雨なんだらう、八時起床。
朝食、女學生もやつてきた。荷物をおいて
自動車で二葉小學校へ、入るとラッパで歡
迎だ、小原先生の講演の間、最後だからし
つかりやらうといふので、控室で練習。こ
ゝは旅行中最後の目標であり、一番の舞臺
なので、みな一生懸命數回の公演で練習も
出来たし、落ちつきも出たし、思ひ切りや
つて最後を飾らうといふ決心だ。校旗を先
頭に體操部は堂々行進、みな元氣一杯だ。
校旗に對する敬禮ラッパが響き渡つた時、
場内は寂として、嚴肅な氣分になつた。
生徒が千八百人、職員が五〇人といふから、
他の人達も合せて二〇〇〇人以上の觀衆だ
つたらう。

體操は上出来だつた。途中で女學生のや

ブを見にかけた。雨の盛に降る中を、信
濃川を渡り大部漆く自動車を走らした。行
つて見て驚いた、入口にずらりと茶店が並
んで、この雨の中を見物人がなか／＼多い
入場料をとつて見せるのだ。傘をかりて畑
をまはつた。三百町歩とか言つたが、見渡
すかぎり一面のチネリッが、色様々に
整然と咲きみだれてゐる。雨で遠くはポー
として見えないが、天氣のいゝ日は大した
ものだらう。日本一は勿論だが、本場の和
蘭ヤデンマークにもかうした廣大なものは
なからう。かうやつて見ると、チネリッ
プにも僕等の初めて見るやうな種類のもの
がなか／＼澤山あるものだ。これが個人の
經營といふから大したものだ、今度の旅行
の收穫の一つだつた。

夕食後、新潟で一番大きなイタリヤ軒と
いふところで、最後のお別れの會を催した
明治初年に伊太利人が經營したものださう
で、爾來幾十年連綿として、今日に續き、

三階建の宏壯なものだ。佐藤さん、校長先生、坂本さんなど卒業生、みんな集つて、お茶とお菓子に果物で、楽しい集りだつた。

關根君の司會で始つて、校長先生、小原先生を始め、先生方からお話があつたが要點をかいてみる。

小原先生

二葉の先生方、坂本君等卒業生の人達、

大矢君に對してのお禮の言葉、

生徒達はみんなよくがんばつたこと、よく働いたこと、旅行は立派な成績だつた

終りに服装、禮儀、姿勢などについて一寸注意

二葉の校長先生

今晚の會へ招待された禮、體操、音楽と共に立派なものを見せて貰つて嬉しかつたことなど。

佐藤さん

體操が非常にうまくなつた、團體の力を

感じる。音楽については、むづかしいものでなく、誰にもできるものだといふことを感じた。

坂本さん

小原先生の息子の代表として、我々はこの旅行を非常に喜び迎へた。成城の昔の

氣持になつた。

岡本先生

小原先生から朝寝坊といはれた辯解、音楽は少し練習が足りなかつたのが、かへ

つて効果を上げた。専門的でないのがい

と思ふ。誰にも音楽はできるものだといふ感じを與へた。

齋藤先生

この旅行を思ひつたこと、自信がなかつたが、佐藤さんなどの骨折りにより決心、一人分の旅費、後仕末、地方の先生

方、二葉の先生方へ感謝、禮狀、年賀狀など忘れず出すこと、白石のおばさん、

小原のおばさんへお禮の言葉。

終りに小原先生から、男女一緒の旅行なんだからお互に氣をつけて、かへつてからもよく慣むこと。留守の者がうらやましがらうなことをするな等、細い御注意。

あとはみなで、砂山、サンタルチャヤ、おけさを歌つたりステージで合唱をやつたり、坂本さん達が成城で教はつた歌をとい

ふので「歌へ若人」をやつた。ホテルの人達も出てきて、盛大だつた、記念撮影、校

歌、萬歳を三唱して散會、

大急ぎで自動車で歸へ。見送りが大勢だつた。別れにうんと歌つた、九時半後車、

握手、さようなら、萬歳、歌、雨の中をだん／＼遠くなつて行く。胸一ぱい歌つてゐる中になんとはなし感激の涙がにじみ

出てきた、いゝ晚だつた、何時までも思ひ

出に残るやうな有難い夜だつた、

五月七日

朝六時半上野着、

をはり。

玉川學園一行を迎へて

新潟縣 保内 小學校

五月五日 天氣晴朗、早朝より會場準備やら、附近學校への

案内やりに職員はおびたゞしい忙殺である。

やがて定刻八時前には他校児童職員を合して會場には立錐の餘地もない。

今日は玉川學園生徒約三十名園長小原先生を迎へるの日だ。

八時半、小原先生のお顔がみえられる、先生の明快な句調で

日本人の體育をとかれ音楽による情操陶冶の必要をのべられる

まことに聴き得がたいお話だつたことを一同と共に深く感謝す

る。つゞいてデンマーク體操にうつる。

學園の校旗を先頭に男女の生徒約三十名、整然たる歩調と共に

に踊ひだされる體操隊の合唱、滿場轟として聲なし。やがて齋藤

先生の指揮のもとにデンマーク體操基本體操より開始された。

リズム、カルた中に節度あり剛にしてたけからず、眞剣にして

しかも明らかな、これこそ日頃環んでゐた體育ではなかつたか。

種目は進められる。

均整のとれた風格、練精された技巧、そこから描きだされる

曲線の美しさ、マッスの力強さ、まさに繪であり、藝術である。齋藤先生の指揮をなされ乍らの親切な御説明には、私達聲震されるところ多大だつたことをうれしく思つた次第である。只指揮の號令が私達外語に貧しい者にとつてその意の明らかならざりしを遺憾とする。

最後の跳躍は視察をしていやが上にも感嘆鼻齋の絶頂に達せしめた。一技毎に起る拍手の音は會場をうづめた。

ことに児童をよろこばせたことはこの中に交つて妙技をふる

つてゐる大矢君が當校の卒業生であることであつた、約二時間

にわたるデンマーク體操は終つた。整然として退場して行く生

徒を見送る觀衆は漸く我にかへつて大きく息をつく。次いで音

樂會である。

東都の中央に粹を集めたコンクールに優勝した團體だけに流

石に美しい聲の流れである。可愛い口元から流れる音律は全く

すばらしいものであつた。太い縦糸を細い横糸が追ふ、柔らかな

斜の線がその間をつくる。先生のタクトは自由にこのコーラ

スは剣り自在にこれを操る。感嘆の極みである。まさに驚異で

ある。十數種目はつゞけられた。サウナラを歌謡によつて換

擧されたこともうれしいことであつた。かくして講演體操音楽

は全部終りを告げた

!! 書良きたしめ奨おに方生先

著者	書名	版数	定価	送料	備考
小西重直	小西博士全集	3版	二、〇〇〇 <small>（郵券）</small>	〇、二四	小西博士の教育説は今や事實上日本新教育の主流である。先生の著書を集めたる寶玉の如き此の全五巻を持つ事は、教育者として絶対の資格でなければならぬ。
長田新	教育精神の本質	10版	二、〇〇〇	〇、三〇	此の小冊の中に、ペスタロツチ一學者である長田博士は教育精神の本質といふ最も大事な問題をわかりやすく充分に盛つて下さりました。
編輯代表者 小原國芳	ペスタロツチ一全集 <small>全五巻</small>	5版	各巻 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇	〇、三〇	世界が永久に記念すべきこの教育寶典を日本の全學校にセヒ一部を—更に若き教育學徒の書齋に眞に教育道に生きんとする人の机上に……
鯉坂二夫	ルソーのエミール	3版	〇、二〇〇	〇、三〇	ルソーのエミールが世界の三大教育書の一つである事は今更言ふまでもない。これはその大體を譯述したもので、忙しい教育者にとって此の上もなく珍寶である。
東郷實	精神日本の建設	5版	一、五〇〇	〇、一〇	北大が生んだる農學博士、日本に稀に見る人格政治家、農村經營、植民問題の權威者、東郷先生の此の書を……
本間俊平	私の教育	25版	一、二五〇	〇、二〇	一切が最後は宗教に歸り来る！ 巨人本間先生の宗教教育論に生きられよ！
小原國芳	母のための教育學	72版	二、五〇〇	〇、二四	稿を改むること實に六回、版を重ねること實に七二。日本の教育書の高レコード。先生方にもお母さま方にもセヒ!!
玉川學部	勞作教育の實際	5版	一、八〇〇	〇、三〇	過共七年間苦行の結晶！
三浦修吾	學校教師論	18版	一、八〇〇	〇、三〇	教育道を眞に生きられたる、三浦修吾先生の本書を日本の全ての教師に贈る！
長田新	教育即宗教論	7版	〇、二〇〇	〇、三〇	文學博士長田新先生の教育の第一義を味讀を乞ふ。

編輯室

くによし

◇今月號は、「機操音楽行脚號」にいたしました。許して下さい。四十八頁の雜誌が六十頁にもなり、殆んどこの記事にあてましたのは、一般の讀者の方々へはすまぬやうな氣も致しますが、
實付私共と致しましては、あれでも、中々の大事業で、教育上からも、重大な實驗でした。日本教育の大事な記録に残るべき一實驗だつたと思ひます。それで、なるべく詳しく記録に残すことが、義務だとも考へたのです。
キツト、讀んで頂いて、喜んで頂けないかと思ひます。
無論、お世話になつた、感謝しきれないほどお世話になつた東北の方々への感謝録にも致したいためでもあります。行つた若人たちのなつかしい「思ひ出」にもしてやりたいためでもあります。どうぞ許して下さい。

◇ホントに、東北の方々、お世話になりました。いくら述べても感謝しきれないことです。
◇青島の教育會からも、この夏はつれて来てくれといふお話です。私も、講習に行きますので、樺太、臺灣、朝鮮、滿洲、北海道、神戶、ハワイも、香港もシンガポールも、もう大抵話しましたが、青島だけが残つて居ますので、行きたいのです。三年前からのお話でしたが、何しろ、成城事件で、いろ／＼テマ殿に御心配して頂いて延び／＼なつて居ました。
◇青島へ行きます爲で、途中及び九州にもと思つて居ます。宮崎旅行でも話しましたら、延岡、都城、小林、佐世保あたり、セヒといふことです。カインマもセヒといつて頂きます。
何しろ三十名前後の部隊をつれて、毎日の激動で、次ぎ／＼夜行で出かけたり、かなりの荷物を運搬しながらの旅行です。心配もして居ます。それと、私共夫婦が幾日、日が取れるかが一番大きい問題ではあります。

◇宮崎、佐世保、成田の先生方、ホントに御世話になりました。
詳しい旅行記は七月號に書かして下さい。せめてもの感謝録にいたします。そして、方々でい、學校を見せて頂いたり、いい話を聞かして頂いたりして、ホントに貴い所得がありました。次ぎ／＼何かして、それらがいい學校やいいお話を紹介いたします。
◇第九回の勞作教育研究會が、スグです。七月號は倍大號か、もしくは倍々大號かに致さねばすまぬかと思つて居ます。どうぞ、知己の方々へもお勧め下さいませ！どうぞ、道の爲に。
昭和十一年六月十七日印刷
昭和十一年六月二十日發行
教育日本 一部 十錢
(五月號) (送料二錢)
半年六拾錢 送料不要
一年一圓貳拾錢
編輯者 小原國芳
發行者 小原清武
東京市牛込區若松町五四
印刷者 大杉直次郎
發行所 玉川學園出版部
東京府下町 川町
振替東京二六六五番